

情報教育の目標	情報教育が目指す「情報活用能力」※新「情報教育に関する手引き」より	情報活用能力(詳細)	教科「情報」をベースにした指導内容	学習活動のイメージ	関連すると考えられる教科※「情報」は除く	指導要領および解説に見る根拠(高校)「解説」は指導要領解説からの引用その他は指導要領原文からの引用	指導要領および解説に見る根拠(情報)「解説」は指導要領解説からの引用その他は指導要領原文からの引用
情報活用の実践力	課題や目的に応じて情報手段を適切に活用する能力	活用すべき情報手段を判断し選択する能力	情報手段の有効性を判断し適切な手段を選択できる。情報手段を使わないという選択も含めた判断ができる。	調べ学習などで、情報収集にインターネットを利用するべきか否かを判断できる。図書館とインターネットの使い分けなどができる。			「問題解決においては、解決の手順と用いる手段の違いが結果に影響を与えること及びコンピュータの適切な活用が有効であることを理解させる。」(情報B)
	情報を主体的に収集し判断する能力	情報を収集する能力	情報通信ネットワークやデータベースなどを活用して必要な情報を効率的に検索し収集できる。	学習に必要な資料やデータを効率よく集める。	理科総合A 保健体育	「情報を収集、整理し、正確かつ簡潔に伝える文章にまとめること」ができる(国語表現)。「情報の収集・検索、結果の処理・集計などに、適宜コンピュータや情報通信ネットワークなどの活用を図る。」(理科総合A・解説)「体育においては、主として、体育理論の学習における情報の収集や、体力に関するデータの処理、分析など、保険においては、課題学習等における情報通信ネットワーク等の活用や、学習に関連する統計図表等の作成などが考えられる。」(保健体育)	「情報通信ネットワークやデータベースなどの活用を通して、必要とする情報を効率的に検索・収集する方法を習得させる。」(情報A)「身のまわりの現象や社会現象などについて、情報通信ネットワークを活用して調査し、情報を適切に収集・分析・発信する方法を習得させる。」(情報C)
	収集した情報を判断する能力	情報の信憑性や信頼性を判断できる。	複数の情報を比較検討することで情報の信頼度を測る。情報を多面的にとらえ、事実を正確にとらえ、公正な判断を行う。収集した資料を取捨選択する。	複数の情報を比較検討することで情報の信頼度を測る。情報を多面的にとらえ、事実を正確にとらえ、公正な判断を行う。収集した資料を取捨選択する。	家庭総合	「情報を収集、整理し、正確かつ簡潔に伝える文章にまとめること」ができる(国語表現)。「得られた数値の処理の仕方やグラフの活用などを考えさせ、体験を通してそれらの探求的な活動で何がどこまで解明され得るのかについて生徒自身が理解できるような配慮をする。」(理科総合A・解説)	「情報の伝達手段の信頼性、情報の信憑性、情報発信に当たっての個人の責任、プライバシーや著作権への配慮などを扱うものとする。」(情報A)
	情報を主体的に表現・処理・創造する能力	情報を処理する能力(分類、加工、編集等)	情報を整理したり必要に応じて加工したりできる。	収集した資料を分類し整理することで使いやすくなる。	国語表現 理科総合A	「情報を収集、整理し、正確かつ簡潔に伝える文章にまとめること」ができる(国語表現)。「得られた数値の処理の仕方やグラフの活用などを考えさせ、体験を通してそれらの探求的な活動で何がどこまで解明され得るのかについて生徒自身が理解できるような配慮をする。」(理科総合A・解説)	「収集した多様な形態の情報を目的に応じて統合的に処理する方法を習得させる。」(情報A)「コンピュータを適切に活用する上で知っておくべきコンピュータによる情報処理の長所と短所を理解させる。」(情報B)
	情報を適切な方法で表現する能力	目的に応じて情報の表現方法を工夫することができる。	収集した情報を数値化したりグラフ化したりしてわかりやすく表示する。課題研究の発表等で説得力のある資料を作成する。	収集した情報を数値化したりグラフ化したりしてわかりやすく表示する。課題研究の発表等で説得力のある資料を作成する。	美術	「コンピュータ等の情報メディアの発達に伴い、これまでの文字言語や音声言語による情報伝達のみならず、いわゆる絵や模型などの立体物など形と色彩によるビジュアルな表現方法を使って、様々な情報を総合的に分かりやすく的確に相手に伝えるコミュニケーション能力が重要視されてきている。」(美術Ⅰ・解説)「映像メディア表現の仮想と現実の相違を理解し適切に分別する力や情報に関する倫理観を身に付け、映像メディア表現を豊かに活用できるようになること。」(美術Ⅰ・解説)「映像メディア表現の学習を通して、映像メディアが社会や環境に及ぼす影響、自己の表現と他者に対する心遣いと調和などを理解し、主題を心豊かに生成し、創意工夫して表現する意欲を高めることが大切である。」(美術Ⅱ・解説)	「情報を効果的に発信したり、情報を共有したりするためには、情報の表し方に工夫や取決めが必要であることを理解させる。」(情報A)「コンピュータを活用して情報の処理を行うためには、情報の表し方と処理手順の工夫が必要であることを理解させる。」(情報B)
	手持ちの情報から新たな情報を創り出す能力	新しい情報を自らの力で創り出すことができる。	既存の情報から規則性や原理などを読み取って新しい情報を創り出す。観測データや実験データから法則や規則を見出す。	既存の情報から規則性や原理などを読み取って新しい情報を創り出す。観測データや実験データから法則や規則を見出す。	物理 化学 生物 地学	「探究活動においては、各項目の学習活動と関連させながら観察、実験を行い、創意ある報告書の作成や発表を行わせること。また、それらを通して、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、実験データの分析・解釈、法則性の発見など探究の方法を習得させること。その際、適宜コンピュータなどの活用を図ること。」(物理Ⅰ、生物Ⅰ、地学Ⅰ)「研究を行うに当たっては、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、実験データの分析・解釈、推論など探究の方法を習得させること。その際、解決すべき課題についての情報の検索、計測・制御、結果の集計・処理などに、適宜コンピュータなどを活用させること。」(化学Ⅱ)「研究を行うに当たっては、課題や仮説の設定、実験の計画、情報の収集、対照実験、調査、測定、数的処理、分類、データの解釈、推論など探究の方法を習得させること。その際、解決すべき課題についての情報の収集・検索、結果の集計・処理などに、適宜コンピュータなどを活用させること。」(生物Ⅱ)「研究を行うに当たっては、課題や仮説の設定、実験の計画、情報の収集、野外観察、調査、数的処理、分類、データの解釈、推論など探究の方法を習得させること。その際、解決すべき課題についての情報の収集・検索、結果の集計・処理などに、適宜コンピュータなどを活用させること。」(地学Ⅱ)	「身のまわりの現象や社会現象などを通して、モデル化とシミュレーションの考え方や方法を理解させ、実際の問題解決に活用できるようにする。」(情報B)
	いろいろな形態の情報を統合的に処理する能力	多様な形態の情報を統合的に処理することができる。情報を統合することで伝えたい内容を分かりやすく表現できる。	多様な形態の情報を統合的に処理することができる。情報を統合することで伝えたい内容を分かりやすく表現できる。ワープロや表計算ソフトなどを利用して報告書やレポートを作成する。	多様な形態の情報を統合的に処理することができる。情報を統合することで伝えたい内容を分かりやすく表現できる。ワープロや表計算ソフトなどを利用して報告書やレポートを作成する。			「コンピュータの機能とソフトウェアとを組み合わせることで活用することを通して、コンピュータは多様な形態の情報を統合できることを理解させる。」(情報A)「収集した多様な形態の情報を目的に応じて統合的に処理する方法を習得させる。」(情報A)「身のまわりで見られる情報機器について、その機能と役割を理解させるとともに、デジタル化により多様な形態の情報が統合的に扱えることを理解させる。」(情報C)「情報機器を活用して多様な形態の情報を統合することにより、伝えたい内容を分かりやすく表現する方法を習得させる。」(情報C)
	受け手の状況などをふまえて情報を発信・伝達する能力	情報を発信する際に様々な工夫をする能力	受け手を考えた情報の発信ができる。	情報の送り手と受け手の関係を意識して情報発信で工夫が凝らされる。言語を用いたコミュニケーションや表現活動のともなう学習。	国語表現 美術Ⅲ	「目的や場に応じて、言葉遣いや文体など表現を工夫して話したり書いたりすること」ができる(国語表現)。「様々な表現についてその効果を吟味し、自分の表現や推敲(こう)に役立てること」ができる(国語表現)。「学んだことや表現したいことを整理し、自分のよさを生かした映像メディア情報として総合化を図り、情報通信ネットワーク上で公開するなどして自己を発信し、自己表現と創造的な表現・交流を追求する態度を高めること。」(美術Ⅲ・解説)	「情報を効果的に発信したり、情報を共有したりするためには、情報の表し方に工夫や取決めが必要であることを理解させる。」(情報A)
	情報を伝達する際に様々な工夫をする能力	伝える情報の内容に適した提示方法の工夫ができる。情報伝達に際して、コンピュータや情報通信ネットワークなどを適切に活用できる。	伝える情報の内容に適した提示方法の工夫ができる。情報伝達に際して、コンピュータや情報通信ネットワークなどを適切に活用できる。	発表時のプレゼンテーションや作品制作を通したコミュニケーション。	美術Ⅰ 工芸Ⅱ	「映像メディア表現の学習では、映像メディア機材を使用・活用し、視覚的な表現によって情報を伝達・交流する能力を高めることを狙いとしている。情報の伝達・交流における造形表現は、言語を補うだけでなく、心情などの伝達において独自のコミュニケーション機能を担っており、このような情報の伝達・交流における造形の役割をとらえ、生活に生かす能力や態度を育成することが必要である。また、コンピュータ用ゲーム・ソフトの創造としての表現など、美術がデジタル・メディアなどの産業に寄与する能力として大切に生かしていかなければならない。」(美術Ⅰ・解説)「つくるものの図面では、必要に応じて数字や文字を記入したり、細部を拡大して表したりするなど分かりやすい表示・設計を工夫するとともに、レンダリングにおいては、透視図法などを用いて構想や情報が的確に他者に伝わるようにするなど表示に関する知識・技能を身に付けること。」(工芸Ⅱ・解説)	「情報を的確に伝達するためには、伝達内容に適した提示方法の工夫とコンピュータや情報通信ネットワークなどの適切な活用が必要であることを理解させる。」(情報A)「情報伝達の方法や容量を単位について理解させるとともに、情報通信を速く正確に行うための基本的な考え方を理解させる。」(情報C)
	情報の科学的な理解	情報活用の基礎となる情報手段の特性の理解	代表的な情報手段の機能や特性を理解する能力	コンピュータをはじめとした情報機器の基本操作を習得する。情報機器の特性をふまえた使い方を理解する。	情報機器やインターネットの仕組みを実習を通して学習する。		「生徒の実態等に応じて適切なソフトウェアを選択して、その基本操作ができるようにすること。また、情報通信ネットワークを活用した情報の収集、処理、発信を扱い、コンピュータを家庭生活に活用できるようにすること。その際、情報モラルについて理解させること。ウについては、身近な家庭用機器を取り上げて、具体的に扱うこと。」(生活技術・解説)
情報の伝わり方を科学的に理解する能力		情報の本質的な特性を理解し、情報が各種のメディアを介して伝わる際の原理を理解する。	言語活動や自然現象の観察を通して情報の伝わり方を理解する。	理科基礎	「言語や文字の発達により、情報が時代を超えて集積されるようになり、古代においても人類が自然の法則性を見いだしたこと、その中には今日でも通用するものがあると同時に、実証的でなく観念的なものも長く続いていたことを扱うこと。」(理科基礎)	「情報伝達の方法や容量を単位について理解させるとともに、情報通信を速く正確に行うための基本的な考え方を理解させる。」(情報C)	

	情報の特性(情報のデジタル化や情報量の概念等)を理解する能力	文字、数値、画像、音などの情報をコンピュータ上で表す方法について理解し、情報をデジタル化することの意味を理解する。	AD/DA変換の基礎知識を音や映像の実験で理解する。			「コンピュータなどにおける、文字、数値、画像、音などの情報のデジタル化の仕組みを理解させる。」(情報C)
	コンピュータや情報機器の仕組みを理解する能力	コンピュータ内部での基本的な処理の仕組みを理解する。情報機器の発達の歴史に沿って情報機器の仕組みと特性を理解する。	コンピュータの原理となる2進法、論理演算の基礎となる集合や電子回路の知識を習得する。	数学基礎 生活技術	「コンピュータと2進法との関係などを扱ったりすることも考えられる。」(数学基礎:解説) 「科学技術の進展が家庭生活に及ぼす影響について理解させ、家庭生活の充実を図るためのコンピュータの活用や家庭用機器の適切な管理と活用ができるようにする。」(生活技術)	「情報機器の発達の歴史に沿って、情報機器の仕組みと特性を理解させる。」(情報A)
	インターネットをはじめとした情報通信ネットワークの仕組みを理解する能力	情報伝達の種類や容量を表す単位について理解する。情報通信を速く正確に行うための基本的な原理を理解する。	Webページや電子メールの利用を通して、パケット通信の基本的な仕組みを理解する。			「情報伝達の種類や容量を表す単位について理解させるとともに、情報通信を速く正確に行うための基本的な考え方を理解させる。」(情報C)
	情報の蓄積と再利用(データベースや共有化による利用等)を理解する能力	情報を蓄積・管理するためのデータベースの概念を理解する。簡単なデータベースを設計して活用できるようにする。	インターネット上の様々なデータベースを利用することで基本的な仕組みを理解する。			「情報を蓄積・管理するためのデータベースの概念を理解させ、簡単なデータベースを設計し、活用できるようにする。」(情報B)
	いろいろな形態の情報をマルチメディアという観点で統合する能力	情報のデジタル化によりコンピュータは多様な形態の情報を統合できることを理解する。	様々な作品作りを通して、情報のデジタル化のメリットとマルチメディアの可能性について理解する。	美術Ⅲ	「映像、音、光、などの映像メディア表現の要素を複合的に組み合わせ、総合的な表現効果を考えて映像メディア機材の活用を図ることができるようにすること。」(美術Ⅲ:解説)	「身のまわりで見られる情報機器について、その機能と役割を理解させるとともに、デジタル化により多様な形態の情報が統合的に扱えることを理解させる。」(情報C)
	情報の表し方について理論的に理解する能力	情報を効果的に発信したり、情報を共有したりするためには、情報の表し方に工夫や取決めが必要であることを理解する。	階層構造を持つWebページの作成や、辞書の配列などを通して情報の効果的な表し方を理解する。			「情報を効果的に発信したり、情報を共有したりするためには、情報の表し方に工夫や取決めが必要であることを理解させる。」(情報A) 「文字、数値、画像、音などの情報をコンピュータ上で表す方法についての基本的な考え方や情報のデジタル化の特性を理解させる。」(情報B)
	コンピュータを用いた情報処理の特徴について理解する能力	コンピュータを活用して情報の処理を行うためには情報の表し方と処理手順の工夫が必要であることを理解する。	プログラミングを通してコンピュータによる情報処理の特徴を理解する。	数学B	「簡単な数値計算のアルゴリズムを理解し、それを科学技術計算用のプログラミング言語などを利用して表現し、具体的な事象の考察に活用できるようにする。」(数学B)	「コンピュータを活用して情報の処理を行うためには、情報の表し方と処理手順の工夫が必要であることを理解させる。」(情報B) 「コンピュータを適切に活用する上で知っておくべきコンピュータによる情報処理の長所と短所を理解させる。」(情報B) 「コンピュータの仕組み、コンピュータ内部での基本的な処理の仕組み及び簡単なアルゴリズムを理解させる。」(情報B)
自らの情報活用を評価・改善するための基礎的な理論や方法の理解	問題解決を合理的に行うための手順や手段を理解する能力	目的に応じた問題解決手順の工夫について理解する。コンピュータや情報通信ネットワークなどの適切な活用について理解する。コンピュータによる情報処理の長所と短所を理解する。問題解決においては解決の手順と用いる手段の違いが結果に影響を与えることを理解する。	アンケート調査などを効率的に行うことを通じてコンピュータや情報通信ネットワークを利用する。			「問題解決を効果的に行うためには、目的に応じた解決手順の工夫とコンピュータや情報通信ネットワークなどの適切な活用が必要であることを理解させる。」(情報A) 「問題解決においては、解決の手順と用いる手段の違いが結果に影響を与えること及びコンピュータの適切な活用が有効であることを理解させる。」(情報B)
	問題解決にアルゴリズムやプログラミングを利用する能力	コンピュータの仕組みと関連してアルゴリズムの基本的な考え方を理解する。	コンピュータの原理に論理的・数学的な考え方が生かされていることを理解する。	数学B	「簡単な数値計算のアルゴリズムを理解し、それを科学技術計算用のプログラミング言語などを利用して表現し、具体的な事象の考察に活用できるようにする。」(数学B)	「コンピュータの仕組み、コンピュータ内部での基本的な処理の仕組み及び簡単なアルゴリズムを理解させる。」(情報B) 「(3) 問題のモデル化とコンピュータを活用した解決」については、「ソフトウェアやプログラミング言語を用い、実習を中心に扱うようにする。」(情報B)
	問題解決にモデル化やシミュレーションの考え方を利用する能力	身のまわりの現象や社会現象などを通じてモデル化やシミュレーションの考え方や方法を理解する。	実験・観察型の学習において、モデル化を行いシミュレーションを利用することで従来のような試行錯誤によらない問題解決が可能であることを理解する。	理科基礎 工芸Ⅰ	「モデル実験やコンピュータシミュレーションなどを通して、大西洋中央海嶺(れい)の発見が契機となり地球表層の運動がプレートの動きで説明できるようになるまでの過程を平易に扱い、地殻や地表に見られる地学現象がそれによって説明できるようになったことにも触れること。」(理科基礎) 「スケッチでイメージしたアイデアを視覚化したり、コンピュータを使って投影図を作成しそれを画像化したりするなどして形体や空間を具体的なイメージとして把握し、用途、機能、生産性などの目的や条件が満たされ、かつ、形体や色彩などの美しさが調和しているかどうか吟味すること。」(工芸Ⅰ:解説)	「身のまわりの現象や社会現象などを通して、モデル化やシミュレーションの考え方や方法を理解させ、実際の問題解決に活用できるようにする。」(情報B)
	社会現象あるいは自然現象を理解するために計測や制御の仕組みを利用する能力	情報通信と計測・制御の仕組みについて理解する。社会におけるそれらの計測・制御の技術の活用について理解する。	身近にある家電品の中に計測や制御のプログラムが組み込まれていることを理解する。			「情報通信と計測・制御の仕組み及び社会におけるそれらの技術の活用について理解させる。」(情報B)
	情報を処理する際に統計的な見方や考え方を利用する能力	定量的データと定性的データの違いや、それぞれのデータに適した統計的処理の方法、さらには処理結果の表し方を理解する。	アンケート調査の結果を集計および分析する作業でデータの特性を意識した処理を習得する。	現代社会 数学B 基礎数学	「統計などの資料の見方やその意味、情報の検索や処理の仕方、簡単な社会調査の方法などについて指導するよう留意する。」(現代社会) 「統計についての基本的な概念を理解し、身近な資料を表計算用のソフトウェアなどを利用して整理・分析し、資料の傾向を的確にとらえることができるようにする。」(数学B) 「表計算用ソフトウェアなどを用いて資料を整理する技能と代表値などの基礎的な知識を習得し、それを基にして日常的に扱われている資料の取扱いが適切であるかどうかを調べるなど、活用する態度を育てる。このような活動を通して、学習の成果がより確かなものになるとともに、新たな課題解決に数学を活用しようとする態度が育成される。」(数学B:解説) 「情報化が進化する現代社会では、統計に関する素養を身に付けることは極めて重要である。そのため、資料の整理と標本調査については、必修教科目の一つであるこの科目でも使うこととした。」(数学基礎:解説)	「情報の分析については、表計算ソフトウェアなどの簡単な統計分析機能やグラフ作成機能などを扱うようにする。」(情報C)
情報社会に参画する態度	社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響を理解する態度	社会の情報化の進展とそれが社会へ与える影響を考える態度	情報化の進展が生活に及ぼす影響を身のまわりの事例などを通して認識できる。情報を生活に役立て主体的に活用しようとする心構えを持つ。望ましい情報社会の在り方を考えることができる。	世界史 日本史 政治・経済技術	「情報化、先端技術の発達、環境問題などを歴史的観点から追究させ、科学技術と現代文明について考察する(世界史B)。 「人々の生活の変化に着目して、各時代における産業や生活の中の技術、交通、情報などの発達や教育の普及の影響について追究する(日本史A)。 「情報の同時性による世界の一体化、国境を越えた交流の可能性などに着目し」その課題を考察する(世界史A:解説)。 「インターネットなどの情報通信ネットワークが世界の一体化に果たしている役割や人々の生活様式、労働形態などに与える影響について考察する(世界史B:解説)。 「郵便、電信、電話や情報通信ネットワーク、さらには、新聞、ラジオ、テレビなどのマスメディアも含めて、それらがいつから登場して、社会にどのような変化をもたらしたのかを、その時代的背景も含めて追究する(日本史A:解説)。 「大きな政府と小さな政府、少子高齢社会と社会保障、住民生活と地方自治、情報化の進展と市民生活、労使関係と労働市場、産業構造の変化と中小企業、消費者問題と消費者保護、公害防止と環境保全、農業と食料問題などについて、政治と経済とを関連させて考察させる。」(政治・経済)。 「交通路や交通機関、情報伝達手段などの発達が人々の活動領域を大きく拡大させることによって、社会を発展させ、人々の生活を大きく変化させていくことを追究する(日本史B:解説)。	「情報化の進展が生活に及ぼす影響を身のまわりの事例などを通して認識させ、情報を生活に役立て主体的に活用しようとする心構えについて考えさせる。」(情報A) 「情報化が社会に及ぼす影響を様々な面から認識させ、望ましい情報社会の在り方を考えさせる。」(情報C)

	コンピュータや情報通信ネットワークに起因する社会の問題点や課題に対応しようとする態度	実体験の欠乏による問題、対人関係の変化による問題、健康上の問題、情報格差に起因する問題などについて理解する。	コンピュータやインターネットの利用で問題視されている様々な現象に関心を持つ。	倫理生活技術	「情報社会」については、情報社会の特質、及びその進展がもたらす人間や社会に対する影響について考えさせ、的確に、また主体的に情報を選択・発信することのできる能力やモラルを身に付けさせる。また、情報を活用して自己の生き方を豊かにすることや情報ネットワークによってつくられる人間関係の広がりなどの可能性がある一方、直接的な人間関係の希薄化、生活体験・自然体験の不足などがもたらす問題、人間の主体性の喪失の危険性、間接経験の拡大、知的所有権の保護など情報機器の利用にかかわるモラルの問題などにも目を向けさせ、情報社会の持つ光と影の両面から理解を深め、情報社会における自らの在り方生き方について考えさせる。」(倫理:解説)。「経済の発展、情報化、国際化などの社会の変化に伴う消費生活の変化について、生産や流通の変化、販売方法や支払いの変化、消費者の購買行動や消費構造の変化、あふれる生活情報などを取り上げ、様々な問題が発生している現状を理解させ、消費生活の課題について考えさせる。」(生活技術:解説)	「多くの情報が公開され流通している実態と情報の保護の必要性及び情報の収集・発信に伴って発生する問題と個人の責任について理解させる。」(情報C)
	情報システムの仕組みを理解しそれを利用して生活しようとする態度	社会で利用されている代表的な情報システムについて、それらの種類と特性、情報システムの信頼性を高める工夫などを理解する。	携帯電話をはじめとして、自分たちが様々な情報システムjの恩恵を受けていることを意識する。			「社会で利用されている代表的な情報システムについて、それらの種類と特性、情報システムの信頼性を高める工夫などを理解させる。」(情報C)
	情報技術が生活や産業に与える影響を理解しようとする態度	情報通信と計測・制御の仕組み及び社会におけるそれらの技術の活用について理解する。	家電品や携帯電話など身近にある情報技術により自分の生活がどのように変わったかを意識する。			「情報通信と計測・制御の仕組み及び社会におけるそれらの技術の活用について理解させる。」(情報B)
	コンピュータ犯罪の知識を習得しそれに対応しようとする態度	社会の情報化と情報技術の進展により、さまざまな犯罪が発生する危険性を知り、それに対処する基本的な知識を習得する。被害者だけでなく加害者になることもあるという認識を持つ。	新聞やテレビで話題となっている様々な犯罪に、社会に情報化が少なからず関係していることを意識する。	政治・経済	「一方では情報通信ネットワークを悪用した犯罪など情報化の進展に伴う様々な新しい問題が発生しており、知的所有権の保護や情報モラルの確立が必要であることについて理解させる。」(政治・経済:解説)「情報化の進展と市民生活について、情報の「自由」と「規制」とを対照させ、高度情報社会における豊かで安全な市民生活という視点から考察させる。」(政治・経済:解説)	「情報化の進展が生活に及ぼす影響を身のまわりの事例などを通して認識させ、情報を生活に役立て主体的に活用しようとする心構えについて考えさせる。」(情報A)「情報技術を導入する際には、安全性や使いやすさを高めるための配慮が必要であることを理解させる。」(情報B)「多くの情報が公開され流通している実態と情報の保護の必要性及び情報の収集・発信に伴って発生する問題と個人の責任について理解させる。」(情報C)
	ネットワークセキュリティの重要性を理解しその保全を意図する態度	情報通信ネットワークの仕組みとセキュリティを確保するための工夫について理解する。	銀行のオンライン化によりネットワークのセキュリティが個人の財産を守る上で重要になっていることを意識する。			「情報通信ネットワークの仕組みとセキュリティを確保するための工夫について理解させる。」(情報C)
情報モラルの必要性や情報に対する責任を考えようとする態度	情報社会に不可欠なモラルやマナーについて理解しそれを実践しようとする態度	情報の受け手であると同時に送り手でもあることの認識を持つ。	携帯電話を利用した会話やメールなど、よく利用するコミュニケーションを通して情報モラルを理解する。	倫理生活技術	「生命、環境、家族・地域社会、情報社会、世界の様々な文化の理解、人類の福祉のそれぞれにおける倫理的課題を、自己の課題とつなげて追究させ、現代に生きる人間としての在り方生き方について自覚を深めさせる」(倫理)。	「情報通信ネットワークやデータベースなどを利用した情報の収集・発信の際に起こり得る具体的な問題及びそれを解決したり回避したりする方法の理解を通して、情報社会で必要とされる心構えについて考えさせる。」(情報A)
	他人のプライバシーや個人情報に配慮しようとする態度	情報が複製により広範囲にかつ容易に伝播することを理解し、情報発信や情報伝達に際してプライバシーや個人情報の保護に留意しなくてはならないことを理解する。	Webページの作成や掲示板の利用などを通して個人情報やプライバシーの保護の必要性を理解する。	政治・経済	「多くの情報が様々な方法で公開され流通している実態について調べさせ情報の保護の必要性について考察させたり、個人が情報を収集したり発信したりすることによって発生している問題を調べさせ個人の責任などの点から考察させる。」(政治・経済:解説)	「多くの情報が公開され流通している実態と情報の保護の必要性及び情報の収集・発信に伴って発生する問題と個人の責任について理解させる。」(情報C)「情報の収集・発信における問題点」については「情報の伝達手段の信頼性、情報の信憑性、情報発信に当たった個人の責任、プライバシーや著作権への配慮などを扱うものとする。(情報A)「情報の公開・保護と個人の責任」の情報の保護の必要性については、「プライバシーや著作権などの観点から扱い」(情報C)
	情報公開と個人の責任について理解しそれを意識しようとする態度	多くの情報が公開され流通している実態と情報の保護の必要性を理解する。情報の収集・発信に伴って発生する問題と個人の責任について理解する。	Webページの作成や掲示板の利用などを通して個人情報やプライバシーの保護の必要性を理解する。			「多くの情報が公開され流通している実態と情報の保護の必要性及び情報の収集・発信に伴って発生する問題と個人の責任について理解させる。」(情報C)
	著作権をはじめとした知的所有権について理解しそれを遵守しようとする態度	情報を収集する際や、調べた結果を発表する際に、情報の信頼性や信憑性、著作権の尊重などを意識する必要があることを理解する。	課題研究の発表等他人の文章やイラストなどを利用する際に著作権を意図する。情報のデジタル化と著作権の重要性について理解する。	現代社会美術 I	「どのようにして情報の主体的な選択や適切な活用を図っていくのかについて考えさせることや、個人情報や知的所有権などに対する情報モラルの確立が必要であることについて気付かせることが大切である」(現代社会:解説)。「特に映像メディアが及ぼす社会的影響を考慮し、知的所有権、肖像権、プライバシーの保護等について、適切な指導しておく必要がある。」(美術 I :解説)「作品には作者の知的所有権(特許、意匠権、著作権など)があり、無断でアイデアやデザインを利用したり、真似をしたものを自分の作品として公に発表したりすることは、許されないことを理解し、作者の考えや作品をその人独自のものとして尊重する態度を培うこと。」(美術 I :解説)	「情報の収集・発信における問題点」については「情報の伝達手段の信頼性、情報の信憑性、情報発信に当たった個人の責任、プライバシーや著作権への配慮などを扱うものとする。(情報A)「情報の公開・保護と個人の責任」の情報の保護の必要性については、「プライバシーや著作権などの観点から扱い」(情報C)
望ましい情報社会の創造に参画しようとする態度	情報社会における安全性について考えようとする態度	情報技術を導入する際には、安全性や使いやすさを高めるための配慮が必要であることを理解する。	情報社会では利便性の裏に危険性がつきまとうことを理解する。			「情報技術を導入する際には、安全性や使いやすさを高めるための配慮が必要であることを理解させる。」(情報B)
	コミュニケーションの重要性を理解しそれを正しい方法で活用しようとする態度	電子メールや電子会議などの情報通信ネットワーク上のソフトウェアを、コミュニケーションの目的に応じて効果的に使う方法を理解する。	言語活動をともなう学習活動を通して情報社会特有の留意点を理解する。	美術 Iライティング	「映像メディア表現は、進展する情報社会に主体的かつ積極的に参加していくためのビジュアル・コミュニケーション能力の育成のために、今回の改訂で新たに加えられた。」(美術 I :解説)「特に電子メールは手紙のように形式を整えて書く活動とは異なり、比較的気軽に自由に書くことができ、同じ内容のメッセージを同時に多くの人に発信することもできる。また、海外など遠く離れた人にもすぐに届くため、素早く容易にコミュニケーションできるという利点がある。このような特徴を生かし、実際に書くことの体験を通して指導することが大切である。」(ライティング:解説)	「電子メールや電子会議などの情報通信ネットワーク上のソフトウェアについて、コミュニケーションの目的に応じた効果的な活用方法を習得させる。」(情報C)
	情報社会に参加する上で様々な能力が必要であることを理解しそれを習得しようとする態度	コンピュータや情報通信ネットワークなどを適切に使いこなす能力が重要であることを理解する。将来にわたって情報技術の活用能力を高めていくことが必要であることを理解する。情報技術を社会の発展に役立てようとする心構えを持つ。	進学指導や就職指導を通して、情報社会に参加する上で情報活用能力が必要であることを理解する。	現代社会生活技術	「高度情報化」については、情報の処理や伝達技術の高度化による社会の急激な変化がもたらす影響について理解させるとともに、膨大な情報の中で判断し行動することが必要とされていることに気付かせる」(現代社会:解説)。「高度情報通信社会と家庭生活とのかわりについて理解させ、コンピュータや情報通信ネットワークを家庭生活に活用できるようにする。」(生活技術)「インテリア計画の表現方法としては、パースへの着彩、家具の配置設計、コーディネートボードの作成、コンピュータを活用した簡易の住宅デザインソフトや建築CADなどの住関連ソフトウェアによる実習も考えられる。」(生活技術:解説)	「個人が情報社会に参加する上でコンピュータや情報通信ネットワークなどを適切に使いこなす能力が重要であること及び将来にわたって情報技術の活用能力を高めていくことが必要であることを理解させる。」(情報A)「情報技術の進展が社会に及ぼす影響を認識させ、情報技術を社会の発展に役立てようとする心構えについて考えさせる。」(情報B)